

第52回岡山県がん診療連携協議会議事要旨

1 日時 令和5年4月10日(月) 18:00~19:40

2 形態 web会議

3 出席者 56名

4 あいさつ

○開会の挨拶があった。

5 報告事項

(1) 岡山県

○3月28日に閣議決定されて第4期がん対策推進基本計画の概要について報告があった。

- ・全体目標「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」
- ・「がん予防」「がん医療」「がんと共生」の3本柱と「これらを支える基盤」の整備を維持する。
- ・「がん医療」において、妊孕性温存療法についてが追加され、小児がん・AYA世代のがん対策と高齢者のがん対策が分割されて深掘りすることとなった。
- ・がん医療提供体制の均てん化・集約化について、第3期計画では集約化はそのあり方について検討するとされていたが、昨年改正された拠点病院等の指定要件でも示された通り、今期は役割分担をふまえた拠点病院等の集約化・連携体制の構築を推進することとなった。手術療法・放射線療法・薬物療法についても同様で、各治療における医療機関間での役割分担の明確化、連携体制の整備を進めることが求められている。
- ・がんと診断された時からの緩和ケアの推進について、診断時から在宅移行後の緩和ケア提供体制についても明記されている。拠点病院等を中心に地域の医療機関や介護を含めた在宅サービス事業所等との連携が求められている。
- ・小児がん領域では成人移行が課題となっているため、小児がん拠点病院、がん拠点病院、地域の医療機関、かかりつけ医等の連携を含めた長期フォローアップ体制のあり方を検討する。また、薬剤アクセスの改善に向けても国の方で推進していく。
- ・高齢者のがん対策については、複数の慢性疾患をかかえていたり、介護施設に入所していたりと各々の状況に応じた適切ながん医療が受けられるように、拠点病院等が地域の医療機関や介護事業所との連携体制を進める。
- ・「がんと共生」において、がん患者等の社会的な問題への対策としてアピアランスケア、がん診断後の自殺対策についてが新たに追加された。この分野は国の方で研修会を開催するなどして相談支援・情報提供のあり方について検討していく。
- ・相談支援について、オンライン等を活用した相談体制の整備を進めることが今期計画から盛り込まれた。
- ・「これらを支える基盤」では、第3期計画ではがん医療に位置付けられていたがん登録が今回は基盤の整備に移動した。また、患者・市民参画の推進、デジタル化の推進が新たに追加された。
- ・患者・市民参画の推進について、県のがん対策推進計画を作成するにあたって性別・世代・がん種等を考慮し、患者代表として2名の方に県の協議会の委員にすでにご就任いただいている。
- ・デジタル化の推進については、3本柱を進めていくことに加えて、現況報告のオンライン化、レセプトやがん登録情報を活用したがん対策の評価、オンラインを活用した相談支援、効果的な情報提供等を検討している。
- ・「がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項」では、感染症発生・まん延時や災害時を見据えた対策が上げられている。新型コロナウイルス感染症のまん延により検診受診者が減少したこともふまえ、平時から施設間での連携・応援体制を構築しておく。

・県の第3次がん対策推進計画は令和5年度末までとなっているため、今年度は県が設置しているがん対策推進協議会にて第4次岡山県がん対策推進計画について議論していく。今年度末にはお示しできる予定である。

出席委員より、患者・市民参画の推進について、当院臨床遺伝子診療科でもPPI(patient and public

involvement) を導入しているが1診療科だけでなく多診療科・多地域でPPIを考えていく必要があると思うのでPPIの部会を作ってはどうかと提案があった。臨床の現場まで落とし込まないと広がっていかないのではないかと。また、県として市民公開講座を開催してみてもどうか。

→岡山県より、計画の見直しを行うにあたり、県として今後どのようなことに取組んでいく必要があるのか検討していくため、頂いた貴重なご意見もふまえながら進めていくと回答があった。

出席委員より、拠点病院を中心とした集約化について、集約できるほど医療機関がない地域でさらに集約となるとかなり難しいと思うが県としてはどう考えているのかと質問があった。医療過疎地域では、臨床腫瘍学会が始まったところにはむしろ均てん化が望まれている状態であった。

→岡山県より、国の計画でも医療アクセスを考慮しながら・・・となっているので、がん医療圏での集約化を考えるのか、全県で考えるのか、あるいは県をまたいで考えるのか、集約化と同時に均てん化だと思っているので、均てん化すべきもの、集約化すべきものを今後議論していくと回答があった。

出席委員より、集約化、病院機能分担、感染症・災害時の連携という問題は拠点病院間だけの話合いで済む問題ではなく、県の計画の中で動いていくものと考えているが、(県の計画が示されるのが今年度末ということ)今年1年は協議会内で機能分担等について議論を進めるだけで最終的には第4次の計画が出てからという形になるのかと質問があった。

→岡山県：第4次の計画作成の中で検討することになるかと思うが、必ずしも示されてからでないといけないわけではない。県だけで進められる問題ではなく、役割分担等は本協議会で検討していく必要があるかと思う。必要があれば今年度から進めていく。

→出席委員：第4期計画がまだ出たばかりでこれから進めていくことになるが、拠点病院の認可要件にも書かれている「ロジックモデルを活用しての評価と進捗管理」について、これは病院というよりは県としてだと思うので、県が先導して意見を集約していただけるとありがたい。

(2) 事務局・岡山大学病院

○令和4年度各拠点病院から情報提供があった研修会・講演会について報告があった。引き続き、今後も情報提供いただきたいと依頼があった。

○岡山県がん診療連携協議会HP閲覧統計(R4年度)について報告があった。

閲覧数については、例年同様「セミナー・講習会(医療関係)」が最も多く、「がん相談支援センター」「セミナー・講習会(一般向け)」と続く。訪問者は9割以上が初回、地域別では約8割が岡山県内となっている。

(3) 作業部会等

① 地域連携パス部会

○令和4年度岡山県統一版がん診療連携パスの算定実績(R4.11~R5.3集計分)(R4.4~R5.3集計分)について報告があった。

- ・パス使用実績年間合計では例年同様、倉敷中央病院が122件で最多であった。
- ・乳がんパスの使用については倉敷成人病センターが37件で最も多かった。
- ・岡山県統一版の5大がんの地域連携パス診療手帳について、3月末に「大腸がん」の改訂が完了した。各施設に送付しているのでこれを機に活用が高まればと思う。
- ・今年後は「胃がん」の改訂を予定しているので関係者の皆様にはご協力をお願いしたい。
- ・第4期計画が示されたことで、今後部会として何をしていくべきなのか皆様と話合いたいと思う。本部会は定期的には開催していないと引継ぎを受けたので、今後について相談させていただきたい。

→出席委員：地域連携パスの運用は第4期指定要件から外れている。当初は指定要件の中でパス部会として運用してきたが、今後はパスに限らない地域連携を進めていくことが必要かと思う。今後は地域連携部会としての運営をお願いしたい。

② がん相談支援部会

○1月23日にweb開催された第50回がん相談支援実務者会議、及びピアサポーター研修について報告があった。

・9月のがん征圧月間パネル展示について、図書館との連携展示、がん診療連携拠点病院でパネル展示を行った。昨年度作成した新しいパネルの展示は好評で、展示期間を延長した施設もあった。

- ・がん相談員研修について、昨年度は3回開催できた。
- ・昨年度の新たな活動として、2月に労働基準協会へがん相談支援センターの広報に行くことができた。
- ・がん相談支援センターリーフレット改訂。修正箇所が増えてきたので新たに刷り直した。
- ・ピアサポート研修を3月18日(土)に開催した。岡山大学病院は、今年度も県から委託を受けているためピアサポーターの活動を月2回継続して行う予定である。
 - ・今年度の活動について、図書館との連携展示は継続、征圧月間に市政だよりなどでがん相談支援センターの周知を図る予定。
 - ・「P D C A進捗状況確認」をテーマにグループワークを行った。この部会では、P D C A 3クール目に入っており、1年目の進捗状況について各施設で報告し合った。5月開催の次の部会では、2年目の目標について情報共有する予定である。

③ 緩和ケア部会

- 3月13日にweb開催された第30回緩和ケア実務者会議、及び令和5年度緩和ケア研修会の開催予定について報告があった。
 - ・令和5年3月1日現在の岡山県の緩和ケア研修会修了者の累計は2,978名であった。
 - ・第3次岡山県がん対策推進計画の数値目標(令和5年度末)は2,500名なので、達成できた。
 - ・第4次岡山県がん対策推進計画で緩和ケア研修会修了者の数値目標を入れるかどうか、また医師以外の職種の数値目標を定めるのかについては、県の協議を待ちたい。
 - ・日本緩和医療学会が行っている2022年度緩和ケアチーム登録について、全国集計、岡山県内の登録施設(7施設)の集計、そして自施設のデータを比較して自己評価していただく。
 - ・昨年12月9日にオンラインで開催された第10回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会 緩和ケア部会の報告を行った。
 - ・昨年度の緩和ケア研修会について、各施設はコロナ対策を工夫しながら開催した。
 - ・今年度の緩和ケア研修会については、コロナの感染状況を見ながら徐々に拠点病院以外の研修医も受け入れていこうという話は出ている。

④ がん看護部会

- 1月25日にweb開催された第62回がん看護部会、及び3月24日にweb開催された第63回がん看護部会について報告があった。
 - ・1月19日に「がん患者の在宅看護」をテーマにオンラインでがん看護セミナーを開催した。全県から参加者を募った第1部の参加者は75名、拠点病院関連の看護師が対象の第2部は31名であった。内容的に「満足できる」「よく理解できる」「実践に活用できる」等の良い評価が得られたので今年度も計画する予定である。
 - ・今後の部会活動について、今年度からは各施設単位で教育・質評価・研修の3つの小グループに分かれて、リーダー施設を中心に活動していただき、年4回開催のがん看護部会で報告し合う。
 - ・共通スライド見直しWGについて、昨年度1年かけて見直しを行った。今までの基本的7領域はそのまま引き継ぐ形で、内容をカリキュラムに沿った形で増やしてブラッシュアップしていく方向性に決まった。スライド見直しは今後「教育」WGに引継ぎ、1年かけて内容を見直ししていく。
 - ・がん・生殖医療部会が作成した「がん看護の妊孕性温存についての相談・紹介の流れ」のフロー図の紹介があった。部会内で共有し、患者支援につなげていく方針である。

⑤ 研修教育部会

- 3月6日にweb開催された第24回研修教育部会、及び2月8日に開催された2022年度オンライン研修について報告があった。
 - ・年1回開催している研修会について、2月8日(水)19:00~20:00 オンラインで開催した。テーマは「岡山県のがん診療におけるより良い病病・病診連携に向けて」とし、<患者を送る側>岡山赤十字病院、岡山医療センター、<受入れ側>笠岡第一病院、岡山西大寺病院、津山中央訪問看護ステーションに講演していただき、その後ディスカッションを行った。当日の参加者は約66名、終了後のアンケート回答は40名であった。研修会を行うにあたり、県下の医療機関に事前アンケートを実施し179名から回答をいただいた。
 - ・連携で困っている事について、情報のやり取り(インフォームドコンセント、家族の受入れ状況、事前に情報得ていたが患者の状態と違う等)が最上位に上がった。
 - ・今後連携を推進する上で有用性が期待できることとして、連携パスの内容拡充・運用の見直し、新

たな情報マネジメントの開発等が上がった。晴れやかネットが3月末で終了したため、新たなツールの活用が必要かと思う。岡山市が導入している Medical Care Station が提案として上がっていたが、使用が増えて有用であればその活用を県内に拡大することも検討していく必要があるかと思う。今後は連携パス部会で連携の在り方について協議していくことになるかと思うが、本研修会で寄せられた意見を参考にしていきたい。

⑥ がん登録部会

○3月13日にweb開催された第17回がん登録部会について報告があった。

- ・院内がん登録標準登録様式に新規に追加された「オプトアウト状況」について、情報共有をしたいという意見がありアンケート調査を行った。
- ・「2021年版岡山県院内がん登録報告書」について、各市町村別に集計しているが、岡山市は区ごとに分かれているため本件も区ごとの集計としたいが問題ないかと相談があり、不都合な施設は連絡していただくこととした。
- ・岡山県より、「岡山県がん情報及び匿名化が行われた岡山県がん情報の提供に関する事務処理要領」の改正について説明があった。
- ・予後調査の共有について、各施設での個人情報の取扱いが問題となっている。予後について問い合わせても、個人情報保護を理由に情報提供いただけない施設があった。がん登録部会参加の13施設間でスムーズに共有を進めるために岡山県に相談した結果、岡山大学病院に対して、協議会として個人情報の取扱いについて統一した見解を公示していただくこととした。
- ※ 個人情報の法律の中で、「地方公共団体へ届出対象情報を提供する場合は本人の同意を得る必要はない。」とある。「院内がん登録事業」では、「がんの情報を当該病院で記録・保存する場合と国がんに情報提供する場合は本人の同意を得る必要はない。」とあるため本部会としては、(収集したデータを使って研究等を行うことは不可であるが、)登録は可能と解釈している。

出席委員からも、「がん登録における個人情報の取り扱い」において「第三者提供の例外として、がん登録の事業は提供しても構わない。」と解釈していると意見があった。岡山県がん診療連携協議会としては、がん登録の予後調査は個人情報保護にはあたらないので、依頼があれば情報提供をしていただきたいという考え方で統一したいがいかがか。

⇒反対意見はなかったため、岡山県がん診療連携協議会としてはがん登録の予後調査として他拠点病院から依頼があった場合には協力していただける方向とした。

⑦ がん薬剤師部会

○2月18日にweb開催された第5回岡山県がん薬物療法セミナーについて報告があった。毎回部会員が講師を担当しているが、部会員自身も興味がある話が聞きたいということで、「がんゲノム医療」について講演を行った。参加者は61名で概ね良い評価をいただいたが、がんゲノム医療については初めて聞く受講者からは内容が難しいという意見も寄せられた。今後は部会員自身も勉強していきけるテーマを設定しながら、岡山県のがん治療の均てん化に少しでも貢献していきたい。また、研修会について、病院薬剤師のみならず薬局薬剤師にも積極的にお声掛けしながら連携が取れる体制を構築していきたい。

⑧ 歯科部会

○1月25日、及び3月1日にメール会議を行った結果について報告があった。がん患者の口腔機能管理における医科歯科連携の現状について各施設にアンケート調査を行ったところ、各施設で苦慮している現状が明らかになった。口腔ケアについて、各拠点病院からかかりつけ歯科医に紹介しているが、断られることもあり如何に対応していくかが課題である。また、歯科関係の研修会について各拠点病院、及び部会員に情報提供を行った。

⑨ がんゲノム医療部会

○3月1日にweb開催された第2回がんゲノム医療部会について報告があった。

- ・がんゲノム医療中核拠点病院とがんゲノム医療拠点病院の指定要件において、第三者認証 (IS015189 か CAP) を受けた臨床検査室と病理検査室を有することが必要である。がんゲノム医療連携病院では「有することが望ましい」となっており、当初は、今後取得する予定ということでも認められていたが、今後の状況を考えるとまだ取得していない施設は早急に検討されたい。

- ・連携病院の指定要件で遺伝カウンセリング部門の設置が必要となっているが、認定遺伝カウンセラー等の臨床遺伝の専門職が不足しているのが実情である。養成機関が少ないが、ニーズに応じていく必要がある。
- ・遺伝性腫瘍多遺伝子パネル検査 (multi-gene panel testing: MGPT) について情報提供があった。保険収載に向けて申請の動きがある中で、今後はゲノム情報に基づいたがん予防と併行して進めていきたい。
- ・P P I について、全県的にやれたら良いのではないかと意見が上がっている。
- ・がん生殖医療分野について、がん治療前に採卵しておくことで遺伝情報が分かってくるため、1施設だけでなく地域医療の中で広く考えていく課題かと思う。

⑩ がん・生殖医療部会

○2月14日にweb開催された第4回がん・生殖医療部会について報告があった。

- ・昨年度の目標は、妊孕性温存を求める小児・AYA世代の相談・紹介の流れを明確化するフロー（岡山県版）を作成することであり、各施設の状況を報告していただいて1年かけて県内の標準的なフローを作成した。施設によって患者の背景、がん相談支援センターの状況、生殖医療を行っている産婦人科の有無等の違いがあるのですべてを当てはめることはできないが、県内共通としてこのフロー図を基に対応していくこととした。今年度は作成したフローに沿って対応できるのか検証していく。
- ・岡山県妊孕性温存に係る医療従事者研修事業で「がん生殖医療・妊孕性温存相談・紹介の手引き」（別冊資料）を作成した。県内共通のフロー図も入れているので、がん診療を行っている医師、そこで相談に乗るような方々に使用していただきたい。
- ・一昨年度は各施設のがん相談支援センターにアンケート形式で妊孕性温存に関する相談の実態調査を行ったところ、妊孕性温存に関する相談件数はまだ少なく、また相談を受けた後の対応について意見が寄せられたことで、昨年度フローを作成した。今年度は、患者が一番に出会うがん診療を行う診療科でどのように相談・紹介ができているか、またどのような課題があるかについて各科の医師に調査を行うことを計画している。また、今年度実施できるかどうか不明だが、患者への調査を行ってはどうかという意見も出ているので調整していく。

※ 岡山県がん診療連携協議会ホームページに「がん生殖医療・妊孕性温存相談・紹介の手引き」（別冊資料）をPDFで掲載する。

(4) 地域がん診療連携拠点病院・診療病院・推進病院 報告事項なし

6 協議事項

特になし

7 その他

○岡山市より、「岡山市がん患者アピアランスサポート事業」の一環として行うウィッグ購入費の一部助成をR5.4.1～始めたという広報があった。助成対象者の条件をすべて満たす方が、対象のウィッグを購入した場合に購入費用の2分の1の額を助成する。対象者がいれば広報をお願いしたいのと、医療機関が作成する必要書類に「がん治療による副作用として脱毛がある」ことを記載していただきたい。

8 次回開催日

次回は、7～8月頃開催予定。

開催日が近くなったら日程調整を行う。

（対面の場合は岡山大学病院 大会議室、コロナ収束状況次第でweb開催とする）